



うりづらかんきょうほぜん

なかし

瓜連環境保全クラブ（茨城県那珂市）

- 本地域は、県中央部の那珂市の北部に位置し、北は久慈川、南は那珂台地に挟まれた稲作中心の水田地帯です。
- これまで農業者中心に行われていた草刈り等について、非農業者の協力を得られるようになり定期的に実施されています。
- 子供達に伝統的農法での米づくりを体験してもらい、田植え祭や稲刈り・収穫祭等を行うことにより、地域住民の交流活動の活性化が図られています。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積27.5ha（田27.5ha）
- ・資源量 水路7.0km
農道5.6km
- ・主な構成員 自治会、子供会等
- ・交付金 約1.3百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、昭和36年に周辺地域の区画整理事業が完了した地区であり、地区内施設の管理を行ってきた農業者の高齢化や後継者不足等により十分な保全管理ができなくなってきたため、瓜連環境保全クラブとして平成19年度に組織を立ち上げ、土地改良施設等の管理や資源、保全周辺環境を向上させるべき活動を実施してきた。



活動組織位置図

取組内容

- 共同作業による農地周り・水路法面・農道法面の草刈りや水路の適正管理を実施
- 子供会と連携し、水中生物の生息状況調査を実施
- 自治会や子供会等と連携し、保全活動や田植え祭や稲刈り・収穫祭等を実施
- 休耕地を利用し紫陽花・菖蒲の植栽を実施
- のぼり旗や看板設置による広報・普及活動を実施



生き物調査



収穫後のはざ掛け

取組の効果

- 農業者・非農業者が協力して施設の点検や草刈り等が積極的に行われ、施設の保全管理が徹底されるようになった。
- 農用地帯への景観植物の植栽や定期的な巡回清掃、休耕地の活用等により、水田を取り巻く周辺環境の景観が向上した。
- 子供達に伝統農法での米作りを体験してもらい、田植え祭や稲刈り・収穫祭を行うことにより地域住民の交流活動の活性化が図られた。
- のぼり旗や看板を設置してPRをし、活動内容の周知が図られている。



施設の点検



PR用の看板



おおわわらしためんてききのうしはらいすいしんきょうぎかい

おおたわらし

大田原市多面的機能支払推進協議会（栃木県大田原市）

- 平成19年度から独自の多面的機能支払支援ソフトを導入し、活動組織の事務負担の軽減にいち早く取り組んでいる。
- また、平成24年度には、市で協議会を設立し、活動組織からの事務受託を開始。現在では、市内52組織のうち27の組織の事務を引き受けている。
- 事務支援システムを活用することにより、活動組織の事務負担が低減されるだけでなく、協議会事務局や市役所職員の書類確認作業にかかる負担も大きく低減されている。
- 更なる事務負担軽減に向け、引き続き、活動組織に寄り添った支援を進めていく。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積1,933ha
(田1,864ha、畑69ha)
- ・資源量 水路288km
農道176km
- ・主な構成員 自治会、育成会、
土地改良区 等
- ・交付金 約85百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

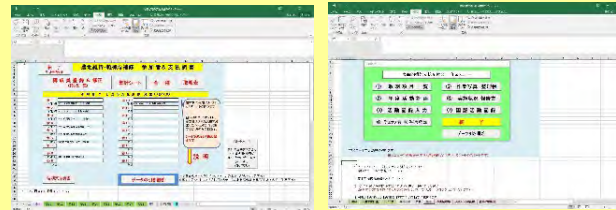
- 大田原市では平成19年度から独自の多面的機能支払支援ソフトを導入し活動組織の事務負担軽減をはかっていた。

新たな活動組織の設立の推進及び、更なる活動組織の事務負担軽減を図るため、大田原市では、推進協議会を平成24年に設立し、活動組織の事務受託を開始した。

取組内容

【活動組織が行う事務】

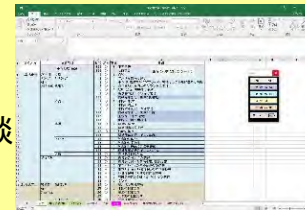
- 金銭出納簿、活動記録、参加者支払調書等をエクセルで作成。マクロが組まれたエクセルファイルを使用。



活動組織の操作画面

【事務局が行う事務】

- 各組織から提出された書類の内容確認。
- 事務委託を契約している組織は、参加者支払調書など最低限のデータの作成と資料の提出により、事務局員が必要な書類を作成。
- その他、書類作成等に係る相談は、常駐の事務局員が対応している。



事務局の操作画面

取組の効果

【活動組織の効果】

- 活動記録と金銭出納簿はそれぞれ別ファイルになっており、各書類の担当を組織内で置くことで、なるべく2名以上で事務を分担し、負担を軽減している。

【事務局の効果】

- 各組織から統一様式で書類が提出されるため、書類の確認作業が効率的かつ比較的容易に出来るようになっている。



田んぼダムの推進

平地農業地域



キーワード

・自然災害の防
・減災・復旧

・地域防災（田
・ぼダム）の取組

おもいがわせいぶのうそんかんきょうほぜんかい

おやまし

思川西部農村環境保全会（栃木県小山市）

- 農業者の高齢化により農業用施設等の管理に係る耕作者の負担が増加してきたことを受け、農地や水路等の管理と非農業者の農業への理解を深めることを目的に、平成19年から本交付金による取組を開始。
- 本地域は、栃木県内で一番低平地であり、古くから洪水被害が多発しているため、本組織は、県内でもいち早く落水柵を設置し田んぼダムに取り組んでいる。
- 効果検証を経て基本方針を定め、認定農用地の田のうち1,190ha（63%）の面積において田んぼダムを実施。近年頻発する豪雨災害の被害軽減が期待される。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積1,933ha
（田1,864ha、畑69ha）
- ・資源量 水路288km
農道176km
- ・主な構成員 自治会、育成会、
土地改良区 等
- ・交付金 約85百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 平成27(2015)年9月関東・東北豪雨災害により、約100haの区域で最大水深1m、湛水期間1週間の被害
※低平地のため、県内でも洪水被害の多い地域
- 本交付金の活用について検討先進地視察や営農、施設の維持管理に関するモニタリング調査を実施
- 平成28(2016)年度には、地元大学と連携して効果検証を実施
- 地元へのアンケート調査も実施して意向を確認し、平成29(2017)年から取組をスタート



モニタリング調査



思川の出水状況

取組内容



- 畦畔及び落水柵の維持管理を、本交付金の活動として位置づけて実施
- 田んぼダムを実施した農家へ畦畔等の維持管理費として、田んぼ1枚あたり年間500円を支給
- 効果の発現状況について広報により伝達
⇒取組の継続につながっている。
目立ったトラブルも発生していない。



落水柵の設置研修



落水柵

取組の効果

- 平成28(2016)年度に実施した効果検証では、シミュレーションにより地区南部における最大湛水（30cm以上）が289haから191haに減少することがわかった。
- 1,190haにおよぶ面積での実施により、近年頻発する豪雨災害の被害軽減が期待される。
- 地域下流の排水機場の運転時間低減が期待される（R5年度検証中）。



取組状況（左：実施、右：未実施）



地元高校と連携した活動の実施

中間農業地域



キーワード

地域資源の
安全管理

農業用施設
の機能増進

連携
教育機関との

組織の広域化
・体制強化

みのはらこういききょうてい

あがつまぐんなかのじょうまち

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 243.8 ha
(田 130.2 ha、畑 113.6 ha)
- ・資源量 水路 105.1 km
農道 51.4 km
- ・主な構成員 自治会、土地改良区、
子供会、老人会、地元高校等
- ・交付金 約17百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

美野原広域協定（群馬県吾妻郡中之条町）

- 本活動組織が活動する美野原台地は、中之条町市街地から北西の方向に位置し、稲作を中心に花きや果樹、飼料作物等を栽培している。
- 当初は、4つの土地改良区（美野原・中之条沢田・青山市城・横尾）にそれぞれ活動組織があったが、事務の効率化と交付金の有効活用のため、平成29年に広域化し、一つの広域組織となった。
- 構成員の高齢化により施設の維持管理が難しくなっている中、地元の吾妻中央高校と連携して、水路の維持管理の基本となる水路図の作成、点検診断や簡易補修に取り組んでいる。

活動開始前の状況や課題

- 構成員の高齢化により施設の維持管理が難しくなっている。
- 水路の適切な維持管理のための基礎資料となる水路図の整備と、各水路の破損状況を把握する必要がある。
- 地域内に実習農場をもつ吾妻中央高校では、農業用施設の測量や、点検診断等を実地でできる実習の場を求めている。



構成員による水路の点検

取組内容

- 水路図の整備や点検診断を実施したい活動組織と、測量などの実地でできる実習の場を求めている吾妻中央高校と話がまとまり、構成員として迎え入れ、高校の実習を兼ねた水路図の作成、点検診断及び補修を共同で実施することとなった。



水路の点検診断

水路の測量

取組の効果

- 平成26年から令和3年にかけて美野原地区の施設の安全管理に役立つ、総延長34kmの農業用水路図が作成された。
- これにより、地域内の施設の適切な維持管理が計画的に行えるようになった。
- 高校生にとっても実践的な活動により技術が身につくとともに、農地と農業用水への理解が深まった。



水路の補修



完成した水路図

おおにんば すいしんきょうぎかい おうらぐんいたくらまち

大荷場むらづくり推進協議会（群馬県邑楽郡板倉町）

- 当該地区は群馬県東部の平坦地に位置し、米、麦を主力とした水田地域である。昭和20年代に耕地整備事業が実施されたが、60年が経過し施設の老朽化が目立ち、高齢化による農業者の減少、都市化の進行により、施設の保安全管理に支障が出てきていた。
- 本地域では平成12年に麦作組合が設立されており、平成19年度の農地・水環境保全向上対策開始時に、麦作組合が中心となり組織の立ち上げを行った。
- 多面的機能支払を利用し、懸案事項であった排水路の整備をすすめていき、麦作組合を中心として地域農業の体制を整えていく予定である。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 80.2 ha
(田 76.8 ha、畑 3.4 ha)
- ・資源量 開水路 12.7 km
農道7.6 km
- ・主な構成員 麦作組合、自治会、
パイプライン組合 等
- ・交付金 約6百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 従来より水路・農道の草刈り、泥上げについては、集落で実施されており、地域のまとまりは良好であった。
- 本地域の水路が土水路であり、特に排水路は法面の崩壊が進んでおり機能維持に苦慮している。
- 麦作組合が設立されており、地域の農業を担っている。



土水路

取組内容



- 集落内の農地の大半を麦作組合が耕作しているので、麦作組合を母体として代表を組合長とすることで、集落全体の合意もスムーズに進んだ。
- 活動の際、大型機械が必要な場合は、麦作組合が活動組織にリースすることで作業の効率化を図っている。



直営施工による水路の更新

取組の効果

- 土水路のコンクリート水路化は町へ要望しても実現できなかったが、本施策を活用することで計画的に施設の更新が図られ、実施でき、農業用水路の機能増進が図られた。(延長:865m(R4現在))
- 農地周りの草刈りを活動組織として実施するなど、地域共同の保安全管理により、担い手が営農に専念でき、安心して営農に取り組める環境が整った。



更新した水路



みちなかごう

ふじおかし

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 21.8 ha
(田 11.3 ha、畑 10.5 ha)
- ・資源量 水路 4.1 km
農道4.2 km
- ・主な構成員 自治会、育成会、
土地改良区 等
- ・交付金 約1百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

道中郷地域環境保全協議会（群馬県藤岡市）

- 本地域は、群馬県南部の藤岡市、神流川沿岸に位置している水田地域である。
- 活動は平成19年度から開始しており、取組面積は大きくないが農業者を中心に活動を実施し、集落全体としてまとまりがある組織である。
- 草刈りや泥上げといった基礎的保全活動に加え、環境保全活動にも力を入れ、集落が主体となり活動することで地域資源の良好な維持管理ができています。
- ビオトープ水路の設置を契機に、環境保全活動に積極的に取り組んでいる。

活動開始前の状況や課題

- 平成19年以前から、市の施策で集落の共同活動を行っていたが、活動回数や活動内容の充実を図ることが難しかった。
- 農村環境の保全・向上に早くから関心を持っていた集落で、平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組みを開始している。
- 新規住民は少ない集落である。



草刈り

取組内容



- 農業者・非農業者と共同で農道の脇に植栽活動を実施して、良好な農村景観を作り出している。
- 地域の農業用水路を環境へ配慮したビオトープ空間になるよう創意工夫し、自主施工している。
- これらの活動を紹介するため、広報誌を年2回発行している。
- 文化財が多く、農村文化の伝承として行事を残し、地域とのコミュニティを図っている。



直営施工



取組の効果

- 集落一体で活動しており、参加率は高く、農村環境や施設の保全について関心が高くなった。
- その結果、農家自身も農地を保全していく意識が向上し、自主的な保管理活動をするようになり、地域の活性化や活動基盤の強化につながっている。
- 平成29年度からビオトープ水路を造成し、ホタルが確認でき、環境保全活動に積極的に取り組んでいる。



ビオトープ



広報紙



おかざきちくほぜんきょうぎかい

あがつまぐんひがしあがつままち

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 81.0 ha
(田 36.4 ha、畑 44.6 ha)
- ・資源量 水路 7.6 km
農道20.1 km
- ・主な構成員 自治会、農業者、女性会、小中学校PTA等
- ・交付金 約5百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

岡崎地区保全協議会（群馬県吾妻郡東吾妻町）

- 当地域は榛名山と吾妻川の間、前橋市の北西に位置した田園地帯で、北西部にある吾妻溪谷に代表される景勝地への副道として車両通行があり、農地における道路沿いではゴミの不法投棄、ゴミの投げ捨てによる環境悪化が問題となっていた。
- 平成20年から農地・水保全活動組織の岡崎地区保全協議会が発足した。1構成員として女性の活動組織「じろべえ会」も取組に参画している。
- 活動組織の構成員で女性の組織は、取組のPR活動、地域との交流会を主体となつて取り組んでおり、地域振興の一助となっている。

活動開始前の状況や課題

- 女性だけで構成する「じろべえ会」は地域の新田開発に尽力のあった代官の遺徳をしのび、その屋敷跡周辺の清掃活動等を30年以上継続している組織である。
- 農地・水の活動組織の設立にあたって、「じろべえ会」との活動目的が一致したことで、組織の1構成員となり、活動組織等が行うPR活動等では主体となって活動を進めている。



代官屋敷跡周辺 清掃活動

取組内容



- 祭礼等のイベントの際は活動組織のPRとして「じろべえ会」が主体となって餅つき大会を開催した。
- 地域の活気を増進して、活性化にも貢献している。



環境美化活動



花の植栽活動



地域の祭礼での
餅つき大会



農業用水を利用した消
防訓練

取組の効果

- 地域のイベントの際は、女性が主体で実施していることもあり、非農家を含む地域住民が気楽に参加しやすい環境が形成されている。
- 現在では地域のほとんどの女性が活動に参加し、活動組織の活気にも繋がっている。



女性部の結束は強い



イベントでは、女性が主体
となって取り組んでいる





めいわこういききょうてい

おうらぐんめいわまち

明和地域広域協定（群馬県邑楽郡明和町）

- 地域の農業者が年々減少しており、地域資源（農地、農業用水路等）を継続的に保全することが困難となっていた。
- このため、平成19年から9行政区において多面的機能支払交付金（旧農地・水・環境保全向上対策）に取り組み始め、平成28年に町全体の16行政区で取り組むようになり、広域活動組織として町全域で活動を実施している。
- 多面的機能支払交付金の取組をきっかけに、各活動組織では、地域農業の将来と課題に関する話し合いが行われるようになり、その結果、農地中間管理機構や基盤整備事業を活用して担い手への農地集積を推進している。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 791.0 ha
（田 400.0 ha、畑 391.0 ha）
- ・資源量 水路 196.8 km
農道232.5 km
- ・主な構成員 農業者、自治会、子供会 等
- ・交付金 約49百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 町内の16集落全てで「人・農地プラン」が策定されているものの、農業者の高齢化や後継者不足から担い手のいないプランも存在している。
- 地域の農業者の減少により、草刈り、泥上げ等の共同活動が困難となっている。



農地の状況

取組内容



- 座談会では、農地の出し手や借り手を交えて話し合いを行う。
- 町や農業委員会と連携して、人と農地の問題解決に向けた話し合いを推進している。
- 農地中間管理機構関連農地整備事業を実施し、担い手への集積、集約化を推進している。



取組の効果

【矢島地区】（H27～30）

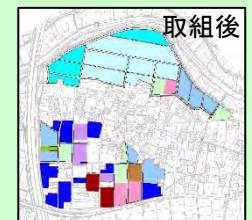
- 農地中間管理事業を活用し、農地集積の推進と担い手の分散した耕作地を集約化した。（農地集積率：100%（R1））
- 集積・集約化した農地約10haは、農地耕作条件改善事業を活用し、畦畔を除去して区画を拡大した。

【下江黒地区】（R1～R5）

- 令和元年から農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農地集積と農地整備を実施している。（農地集積率：2.9%（H29）→100%（目標））



取組前



取組後



若者女性の多様な参画について

中間農業地域



キーワード
若者女性などの多様な参画

ふりたなか ちいきしげん ほぜん かい ちちぶし
布里田中の地域資源を保全する会（埼玉県秩父市）

- 当組織は、平成19年度より本交付金による取組を実施している。
- 埼玉県北西部に位置し荒川の支流である一級河川吉田川の右岸に位置する丘陵地帯であり、区画整理された水田と畑を中心に周囲は山々に囲まれた地域である。
- 農業者の高齢化等による担い手不足のため施設の維持管理に支障が生じる地域資源の保全と環境に優しい農業を進めるため、本組織が設立した。
- 大学と連携したワークショップの開催や各種イベントを開催することにより、女性の参加率の向上につながった。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積13.01ha
(田2.14ha、畑10.87ha)
- ・資源量 開水路 1.3km
農道 2.5km
調整池 1箇所
- ・主な構成員 営農組合、水利組合
自治会、ハウネンエビを守る会
- ・交付金 約0.44百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、子供が減少し、それに伴って女性の参加率が低下した。
- また、全体的に高齢者が多く占めるため、女性が参加しづらいという実態があった。



取組内容



- 小学生を交えた、田植え・稲刈りの実施
- 大学生と連携し、ワークショップを開催
- 地元イベントへの参加
- 景観形成活動(マリーゴールドの植栽等)



小学生との田植え



ワークショップ

取組の効果

- 学生との交流を通して、若者に農業について興味を持ってもらうことができた。
- 営農組合等の組織に属する若者男性の参加者が増加し、夫婦、子供と一緒に参加する女性が増えた。
- 地元のイベントでは、女性の参加率が向上し、会の活性化に繋がった。



地元のイベントに参加している様子



農業用施設の機能増進

中間農業地域



キーワード

農業用施設の機能増進

だいよんぽんぷじょうためんてききのうくみあい おがわまち

第4 ポンプ場多面的機能組合（埼玉県小川町）

- 本地域は埼玉県西部の秩父山系の裾、比企丘陵の端にあたる農村地帯である。農業従事者の高齢化や兼業化・人口減少により、農地・農業用施設の維持管理の低下が進んでいる。また、イノシシやアライグマなどの有害鳥獣による被害も多く発生し、事態の深刻さが顕著であった。
- 不耕作地の発生を抑えるための農地周辺の管理について、地域居住者の理解と協力を得るため地区全体の参加協力をお願いしている。
- 圃場のみでなく、畑や周辺の山林にも手を加えながら地域全体の環境保全と耕作者を増やすための施策を講じていき、次世代へ繋げられるよう活動したい。

【地区概要】※R4年度時点

- ・取組面積 73.7ha
(田48.2ha、畑25.5ha)
- ・資源量 開水路17.9km
パイプライン7.7km
農道7km、ため池18箇所
- ・主な構成員 自治会、農業者
- ・交付金 約 5.2百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 地主による耕作が減り、数名の耕作者により圃場及び畑の周辺が管理されていた。今後、ますます耕作者が減ることと周辺の環境整備が懸念されていた。
- 沼の管理や水事当番の役目のみが継承され、意義や本来の目的が失われつつあった。
- これらにより、農村環境の荒廃が深刻化。



組合設立後の作業

取組内容



- 手つかずになった山極の木々により日影が増え、水路が荒廃していたため、近くの圃場は不耕作になりつつあったため、水路の補修や木の伐採を行った。
- 不耕作地の解消に伴って、ビオトープなどの景観や自然保護の観点からの活動も実施されるようになった。



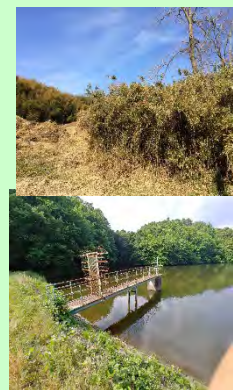
住民協力によるビオトープ



住民によって植えられた曼珠沙華

取組の効果

- 当初は耕作者が中心となり作業等を行っていたが、地権者の方々や地区の協力により作業参加者が増えた。
- 組合の活動により水路の補修や木々の伐採と配水堀の整備により水はけも良くなり、耕作されるようになった。このような場所が5か所ある。
- 水生生物の増加、ホタルなども増えてきた。



何十年も手つかずだった山極



ごあざしげんほぜんこうじょうかつどうそしき くまがやし 五字資源保全向上活動組織（埼玉県熊谷市）

- 本組織は、農地・水・環境保全向上対策を契機に平成19年より本交付金による取組を実施している。
- 本組織では、ため池周辺で伐採した竹で作った竹炭を利用して、ため池の水質保全活動に取り組んでいる。
- ため池周辺では以前は藻が繁茂と腐敗を繰り返し、悪臭を発生していたが、この活動により水質浄化の効果が現れ、藻や悪臭も徐々に減少している。
- これにより、地元自治会の協力を得て、ため池周辺の清掃活動・環境美化活動への参加者が増加することにより、地域住民の関心が高まり、活動への理解が深まっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積129.7ha（田129.7ha）
- ・資源量 水路33.4km、農道7.1km、ため池4箇所
- ・主な構成員 自治会、水利組合、農業者
- ・交付金 約9.8百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- ため池の受益者が減少し、維持管理が困難。
- ため池周辺の雑木林から土砂が流入し機能が低下。
- 藻の繁茂と腐敗による悪臭の発生及び水質の悪化。



環境の悪化したため池周辺

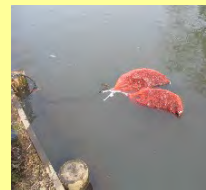
取組内容



- 共同作業により造った炭焼き窯を利用し、地域の竹で竹炭を作り、ため池に投入。
- 平成29年度に、ため池の護岸整備及び浚渫を行い、周辺の雑木を撤去。景観形成のための植栽を実施。



整備されたため池周辺



水質浄化のための竹炭

取組の効果

- ため池への竹炭投入による水質浄化により、藻や悪臭の発生が減少。
- 小学生も含めた地域住民による清掃活動には約140人が参加し、本取組による農村環境の保全への理解が深まった。
- 景観の改善により、ため池への関心も高まった。



整備されたため池周辺



地域ぐるみの共同活動による保全活動

都市的地域



キーワード

農業用施設
の機能増進

にしまたのかんきょうほぜんこうじょうのかい ふじさわし
西俣野環境保全向上の会（神奈川県藤沢市）

- 本地域は、二級河川境川の流域にまとまった農地を形成しており、市の中心的な農業生産の場となっていることから、将来にわたっての維持保全が必要である。
- 土地改良区が主体となり、地域ぐるみの共同活動により農業用施設の良好な保全管理に取り組んでいる。
- 地域住民との交流活動として、取水堰を利用した用水路の生き物観察や景観形成のための水路法面への植栽を行っている。また、老朽化が著しい農業用施設については、長期的な改修に取り組まなければならない時期に差しかかっており、活動組織自ら水路の更新活動に取り組んでいる。

【地区概要】※R4年度時点

- ・取組面積 37.81ha
(田 26.75ha、畑 11.06ha)
- ・資源量 用水路 4.3km、農道 6.6km
- ・主な構成員 農業者、土地改良区
非農業者(自治会)
- ・交付金 約2.9百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 活動開始前から土地改良区が取水門や用排水路の掃除、点検補修等を行っていた。
- 維持管理費用は、市の補助があったものの、農業者の持ち出しも多々あり、厳しいこともあった。
- 地域の様々な団体による地域の環境保全活動があった。

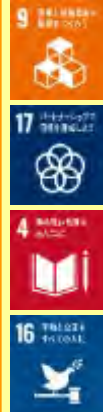


地域ぐるみの
農業用施設の
点検・機能診断
活動(4月)



地域ぐるみの水
路周辺の草刈り・
清掃
(7,9,11月)

取組内容



- 土地改良区が主体となり、地域ぐるみで水路、農道周辺の点検、草刈り、初期補修等を実施。
- 老朽化の著しい農業用水路を機能診断し、漏水箇所の目地詰め等を実施。
- 生態系保全の啓発・普及や、農業への理解を深めることを目的に、田んぼや用水路の生き物観察会を実施。



水路の目地詰め



直営施工による
水路の更新工事

取組の効果

- 米作が盛んな地区内の用水路、排水路の維持管理及び初期補修等を図り、中心経営体の農作業の軽減に寄与。
- 農地を利用した景観保全の取組により、都市的地域が美しい田園風景に変化。
- 生き物観察会は近隣の文教施設とも連携して実施されており、地域の交流イベントとして定着。



取水堰や用水路
の生き物観察会
(8月、約60人)



非かんがい期を利用
した菜の花の栽培
(2月～4月)



活動組織を中心に農村環境保全活動を推進

都市的地域



キーワード

農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

うめのさとかんきょうほぜんかい

おだわらし

梅の郷環境保全会（神奈川県小田原市）

- 本地区は、小田原市東部に位置し、多くの樹園地と農道、排水路が存在し、これらの維持管理は農業者や自治会等の地域住民で行っている。後継者の問題からこれらの維持管理と遊休農地の拡大が問題となっている。特に放置された山林や農地からの侵入竹林の増大による農作業への影響が深刻であり、地域の若手グループを中心に伐採が行われている。
- このような状況の中、本活動組織が中心になって、農道や水路の維持管理、地域の景観形成・生活環境の保全、生態系の保全のための活動を行っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・取組面積 27.9ha（畑 27.9ha）
- ・資源量 農道 18.1km
- ・主な構成員 農業者、土地改良区
非農業者（自治会等）
- ・交付金 約800千円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
（共同）

資源向上
支払
（長寿命化）

活動開始前の状況や課題

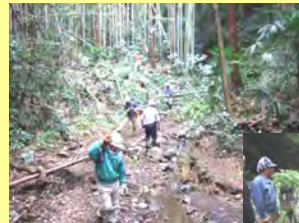


- 多くの樹園地と農道、排水路が存在し、これらの維持管理と遊休農地の拡大が問題となっている。
- 近年は、ハイカーの増加によるゴミの投棄が問題になっている。



ごみの不法投棄防止看板の設置

取組内容



侵入竹林を伐採し樹園地周りの景観を保全
（参加52名）



地域住民との交流
（竹の子狩り）



- 遊休農地の発生状況を把握し、自治体や地元団体とともに農道補修、草刈りや泥上げを実施。
- 地域住民との交流イベントを通して、農業農村の有する多面的機能の理解促進活動を実施。

取組の効果

- 平成19年度から本事業に取り組んでおり、活動の進展にあわせ取組面積を拡充。
- 自治会と土地改良区、地域の若手グループが連携し、樹園地と農道、排水路の維持管理が図られている。
- 侵入竹林の伐採等の農村環境保全活動を行うとともに、竹の子狩りなどのイベントを実施し、地域住民との交流を図った。



樹園地内の生き物調査
（参加47名、小学校）



モリアオガエルの観察・保護